瀬沼夏葉 翻訳家。チェーホフ紹介の先駆となったが、早世した。

せぬまかよう

初の民間工場1875 = 群馬県高崎に生れる。本名郁。聖名エレナ。山田勘次郎・よかの長女。

明治14年政変1881 = 6歳 :

新体詩抄・・・1882 = 7歳 : 母と死別。

秩父事件・・・1884 = **9歳** : 生家がロシア正教会信者となった関係で、

内閣発足・・・1885 = 10歳 : 単身上京し、駿河台のニコライ女子神学校に入学。

帝国憲法発布1889 = 14歳 :

大本教・・・1892 = 17歳 : 卒業後、母校の教師となる。

郡司千島探検1893 = **18歳** :

日清戦争始・1894 = 19歳 :

この頃から文学に傾倒、在学中に読んだ二葉亭四迷の「あひびき」「めぐりあひ」や内田不知庵の「罪と罰」などの影響で、ツルゲーネフ・ドストエフスキーらのロシア文学に興味をもち、ニコライ主教についてロシア語を学び、母校の文芸誌(婦学裏錦)に寄稿する。

子規句歌革新1898 = 23歳 : ニコライ神学校校長瀬沼恪三郎と結婚。

田中正造直訴1901 = 26歳 : *夫を通じて、尾崎紅葉に入門、夏葉の号を与えられ、本格的に文学活動をはじめ。直接ロシア語からの本格的翻訳で「月と人」「写真帖」を(新小説)に発表、チェーホフの短編をはじめで紹介する。

教科書疑獄・1902 = **27歳** :

以後10年間に22編の翻訳を発表し、チェーホフ紹介の先駆となった。

日露戦争終・1905 = 30歳 :

アヲヲ 創刊・1908 = 33歳 : *「**露国文豪チエホフ傑作集**」を出版。

その他、トルストイの「アンナーカレーニナ」・ドストエフスキーの「貧しき少女」・ゴーリキーの「クリミア物語」・チェーホフの「六号室」などを翻訳。病弱のため、一時翻訳活動を中断、2度の単身訪露後、

大逆事件判決1911 = **36歳** :

明治天皇没・1912 = 37歳 :

平塚らいてうの青鞥社の賛助員となり、{青鞥}に「叔父ワーニヤ」「桜の園」「イワノフ」など数編の翻訳を発表。一方、料理や裁縫を好み、家事や子供の教育にも熱心で、家庭生活と翻訳の仕事をよく両立させ、夫との間に4男3女をもうけたが、

21ヶ条要求・1915 = 40歳 : *四男の出産後、中野の自宅で、没した。